

なのhana だより

老健ちば

No. 109

April 2024

NANOHANA
DAYORI

野田ライフケアセンター：お花見女子会



INDEX

1
2

トレンドTOPIX 潮流
(ニュースウォッチ)

2024年度介護報酬要点
特養と老健施設の基本報酬を
大幅引き上げ

フォーカス「老健ちば」

〈理事会・管理者研修〉

3

感染対策緩和 アンケート結果報告

4

〈特集〉

能登半島地震災害支援報告

5
6

〈研修会報告〉

自由気ままに

ペーパーブログ

〈管理栄養士の日常〉

葵の園・南房総

管理栄養士 川名祐加



7

〈なのhanaスマイル〉施設の笑顔紹介

● ナーシングプラザ流山

● 北柏ナーシングケアセンター

〈老健ちばカレンダー〉

〈編集後記〉

<http://www.chiba-roken.jp/>

2024年4月17日 発行

● 発行者/一般社団法人 千葉県老人保健施設協会 ● 編集者/広報委員会

● 〒262-0042 千葉県千葉市花見川区花島町149-1 TEL:043-259-8435 FAX:043-259-8436

トレンド TOPIX 潮流

ちょうりゅう

2024年度改定では基本報酬の引き上げ幅が他サービスより大きく、**介護老人福祉施設(従来型およびユニット型の個室)は2.8%程度。老健施設(基本型および在宅強化型の多床室)は0.6~4.2%の引き上げ**となった。

ニュースウォッチ

2024年度介護報酬要点 特養と老健施設の基本報酬を大幅引き上げ

2023年度介護事業経営実態調査では、介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)と介護老人保健施設の収支差が同調査実施以来初の赤字となった。2024年度改定ではその結果を反映して基本報酬の引き上げ幅が他サービスより大きく、介護老人福祉施設(従来型およびユニット型の個室)は2.8%程度。老健施設(基本型および在宅強化型の多床室)は0.6~4.2%の引き上げとなった。

老健施設は類型による差が拡大

老健施設の引き上げ幅にはかなりの開きがあるが、これは在宅復帰・在宅療養支援機能による5つの類型によって、かなりの差をつけたため。例えば、下位から2つ目の基本型(多床室)の引き上げ幅は0.6~1.3%だが、上位から2つ目の在宅強化型では3.7~4.2%となっている。「上位の類型では在宅復帰率やベッド回転率を維持するために運営コストが相対的に高くなっている」という指摘に対応した。

類型の最下位の「その他型」では、2025年8月からの多床室の室料負担の導入も決まっている。類型下位の老健施設は上位の類型を目指す等、今後の運営方針について厳しい検討を迫られることになりそうだ。

併せて、類型の基準となる在宅復帰・在宅療養支援等評価指標も3項目を

更。入所前後訪問指導割合と退所前後訪問指導割合では基準を引き上げ、支援相談員の配置割合においては最高点(5点)の要件に社会福祉士の配置を加えた。

協力医療機関に具体的な要件

診療報酬との同時改定である2024年度改定では、高齢者施設における医療ニーズの対応を強化するため、医療機関との連携推進に向けた各種の見直しが行われる。介護保険施設及び特定施設入所者生活介護、認知症対応型共同生活介護では、運営基準で確保が求められている協力医療機関について、入所の急変への対応体制などの具体的な要件が示されたほか、急変への対応について1年に1回以上の確認が義務付けられた。

介護保険施設については、3つの要件を満たす医療機関の確保に3年の猶予を設けるが「確保がかなり難しい地域もある」という指摘は検討段階から挙がっている。法人やグループ内に医療機関を持たない特養などが確保に難航すれば、自治体の調整も求められることになるだろう。

協力医療機関との連携の実効性を高めるため、入所などの現病歴等の情報共有を行う会議の定期的な開催を評価する「協力医療機関連携加算」も新設す

る。医療機関側の診療報酬に新設する「協力対象施設入所者入院加算」で手当てする見込みだが、複数の組織にまたがるカンファレンスがどれだけ実行されるのかは未知数だ。

※協力医療機関の要件(③は介護保険施設のみで求められる要件)

- ①入所者等の病状が急変した場合において、医師または看護職員が相談対応を行う体制を常時確保していること
- ②高齢者施設等からの診療の求めがあった場合において、診療を行う体制を常時確保していること
- ③入所者等の病状が急変した場合等において、入院を要すると認められた入所者等の入院を原則として受け入れる体制を確保していること

(日経ヘルスケアNo.412より記事抜粋)



TOPIX

フォーカス 老健 ちば

理事会・管理者研修

令和6年1月15日(月)にポルトプラザ千葉にて理事会を行いました。理事が六人と監事一名が出席し、七議案中一議案を決議し、六議案は審議未了となった。

最後に会長から「災害はいつ起こるかわからない時代になっています。元旦に起こった能登半島地震が記憶に新しく、以前も千葉県で災害があった時に他施設の様子が全く知れない状況だったので、私も直接向かった事を思い出します。このような時に「大丈夫」とひとことで良いので、確認が出来ればこちらも安心します。災害時の為に、平時の連携が大事だと感じています。これからも千葉県老人保健施設協会の会員施設同士の連携が出来るのであれば、色々と検討をして参りましょう」という言葉で会が終わった。

その後、管理者研修が行われた。コロナ禍の管理者研修は、参加人数が少

ない印象でしたが、昨年5月からコロナが5類に変わり、管理者研修も元に戻りつつあると感じられた。

最初の講師として、千葉県健康福祉部高齢者福祉課の島田氏(写真①)



島田氏は、令和6年4月に行われる医療・介護・障害の同時改定の内容を簡単に説明され、最後に「介護報酬改定の詳細は、次に話される全国老人保健施設協会業務部業務第二課課長補佐の山本様がご説明して下さるので、私からは以上です」と締めくくった。

次に、全国老人保健施設協会業務部業務第二課課長補佐の山本氏が令和6年度介護報酬改定について話された。

「昔、私も老健で事務をやっていたので、介護報酬改定への取組はとても大変な事と理解しております。現時点(令和6年1月15日)では、決定内容としてお伝え出来ませんが、社会保障審議会介護給付費分科会で検討されている内容をお話しをさ

せて頂きます」

山本氏が貴重なお話を沢山されたので、簡易書きでお伝えします。

①介護12団体の代表が揃って岸田総理に要望書を提出された。

②所定疾患について、老健は医療を提供する観点から慢性心不全が増悪した場合を追加する見直しを行う。

③協定締結医療機関と実行性のある連携体制を構築する為の対策(新興感染症蔓延でも受け入れる関係の構築)

④ターミナルケア加算で前日及び前々日並びに死亡日の区分等への重点化を図る。

⑤再入所時栄養連携加算について、栄養管理を必要とする利用者から切れ目なくサービスを提供する観点から、医療機関から老健への再入所であつて療養食等を提供する必要がある利用者を算定に加える検討。

⑥老健在宅復帰在宅療養支援機能を推進する観点から支援相談員として社会福祉士を配置する事を評価。

⑦介護現場における生産性の向上に資する取組の促進を図る観点から、現場における課題を抽出及び分析した上で、事業所の状況に応じて、利用者の安全並びに介護サービスの質の向上及び職員の負担軽減に資する方策を検討する為の委員会の設置を義務付ける(3年間の措置期間あり)(処遇改善加算等の取得要件に入るかも知れないので、事前に運営規程に載せる事も要検討。)

⑧令和6年1月22日の分科会で単位数が決定されるので、シミュレーターを作成します。(確認下さい。)

最後に山本様は今から準備が出来る事として、

1、指標の見直しに伴う、施設でのポイントの取り方の検討。

・自施設の現在のポイントの取り方
・自施設の社会福祉士の資格保有者の確認

・入所前後訪問指導割合及び退所前後訪問指導の割合の確認。(上記2つの割合は全国的に高い為、高めの設定に検討されている)

2、見守り機器等の導入の検討
・見守り機器を導入する場合、補助金活用など検討。

3、処遇改善加算本化に向けて、基本的ベースアップの変更に向けて頂くが、1年の検討期間がある。

山本氏の講義の後は、質問をしたい事務長達が山本氏を取り囲んでいたのが印象的でした。とても貴重な講義でした。



感染対策緩和 アンケート結果報告

新型コロナウイルスが5類に移行し日常も戻りつつあり、施設における感染対策緩和について検討している施設も多いことと思います。

今回、面会や外出など現状の対応について会員施設へアンケートを実施し97施設より回答頂きました。結果についてご報告致します。

ご協力ありがとうございました!



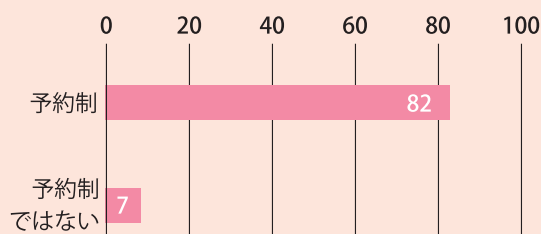
【問1】対面式面会についてお聞きします

対面式の面会を実施していますか?

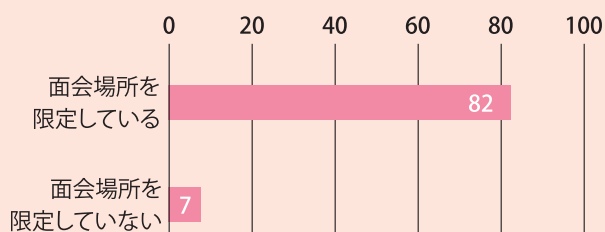


一部制限し実施している施設への質問①②③

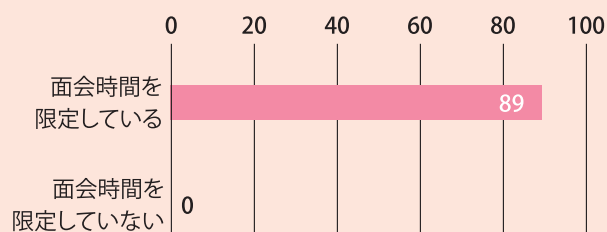
①予約制ですか?



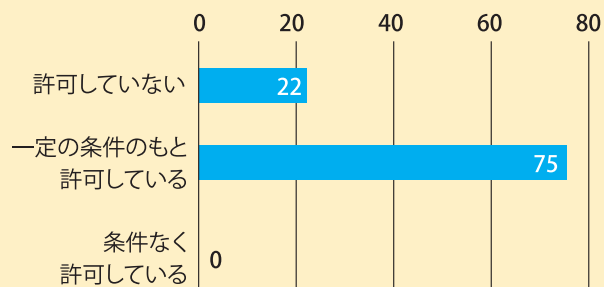
②面会場所について



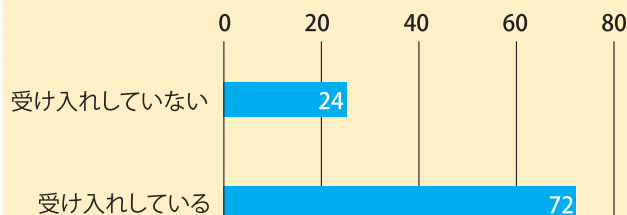
③面会時間について



【問2】外出は許可していますか?



【問3】ボランティア、実習生など外部からの受け入れをしていますか?





能登半島 地震災害支援報告



この度、全老健災害相互支援(DMSD)として、佐倉ホワイエの職員2名、災害福祉支援チーム(DWAT)として、フェルマータ船橋の職員1名が、災害支援に参加されました。現地での貴重な体験をご報告していただきました。

佐倉ホワイエ

1月24日から1月29日まで石川県金沢市の1.5次避難所(いしかわ総合スポーツセンター)に、全国老人保健施設協会を通じて2名の職員が災害派遣介護士として活動してきました。勤務時間は8:00~20:00で1日12時間の勤務はかなり過酷でしたが、学びの多い派遣となりました。

大きな体育館にテントが複数張られ、1つのテントに1~2名の被災者の方が段ボールベッドを入れて住まわれているという状況でした。ほとんどの方が高齢で、輪島や能登からへりに乗って来られ、慣れない場所での生活を余儀なくされた為に介助が必要になった方の支援をするのが私たちの仕事でした。まだまだやっとな生活が始まったような状況で、悲観的な言葉を発する方、なぜ自分がここに居るのか理解できない方など様々でした。とにかく生きることを最優先とし、不自由を二つでも減らし、少しでも心が明るく、安全安楽に暮らせるように支援しました。ナースコールなどなく、それでも不安を沢山抱える方々を支えるには、広い体育館をひたすら歩き回り、安全確認



介護課長：丸山 恵(左)
介護職員：知念 亮子(右)

と何か困っている方はいないか積極的に関わり、声をかけることが必要でした。私たちは、今ある日常が

当たり前のように過ぎてしまいがちですが、この日常がいつ奪われるかは誰にもわかりません。日々を大切に後悔せずに恥じることなく生きていきたいと思う貴重な経験でした。



フェルマータ船橋



塩原 貴子(中央)

1月29日~2月4日まで、石川県七尾市で千葉県DWATとして活動してきました。千葉県DWAT(災害福祉支援チーム)は

大規模災害発生時に避難所生活を送る要配慮者に対し福祉的な支援活動を行う社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、障害者支援員、保育士など福祉専門職による1チーム5人のチームである。

千葉県DWATは1月21日から派遣開始、私は3班だった。七尾市も被害が大きかった地域で断水が継続。1月1日の発災からお風呂に入っていない方、テント内の段ボールベッドで寝る高齢者、体育館という寒い環境が毛布にぐるまり動かない高齢者を生み出す現状もあった。本来の活動は生活の不安や体調不良者の早期発見、福祉ニーズをアセスメントして医療や介護、地元機関に繋ぎ、被災者が日常生活を取り戻す為の支援が役割だが、コロナが流行しておりその対応(隔離対応、受診支援)に追われた1週間だった。

1か月の避難所生活でストレスもある中、活動している私達に「有難う」「お疲れ様」という温かい言葉や笑顔は大変印象的だった。まだまだ長い支援が必要だが全国から様々な組織が支援に入っている。医療、福祉、行政、被災者が連携をして一日一日を過ごしている現実が今まだあることを忘れず、出来る支援、想いを寄せる事がとても大事だと学んだ1週間であった。

研・修・会・報・告

リスクマネジメント研修会

令和5年12月2日「日常業務におけるリスク回避の心構えと、事故発生時の対応」をテーマにリスクマネジメント研修会を開催致しました。

昨年度に引き続き、介護・福祉系弁護士法人おかげさま代表弁護士の外岡潤氏に講師を依頼しました。

新型コロナウイルス感染予防の為、昨年度はリモート開催でしたが、今年度は、ポトプラザちばを会場として、グループワークも含めた研修を開催出来ました。



リスクマネジメントを考える上で重要な考え方として「事故を憎んで人を憎まず」というワードが、講師より伝えられました。事故を起こした職員の資質や主観の原因を求める「追及」ではなく、なぜ事故が起きたのかを突き詰め、客観的かつ実行可能な再発防止策を「追究」することが大切であるとの言葉はとても心に響くと同時に、組織（施設）単位で取り組んでいく必要があることだと実感しました。

発生した事故に対する取り組み方、記録の作成において重要な点。ヒヤリハット記

録の内容や、身体拘束防止に対する取り組みにまで講義は及び、日頃の業務に直結する内容でした。

また、弁護士としての視点や、実際の施設で発生した事故が、訴訟となった事例を具体的にご提示いただき、グループワーク内で、どのような判決に至ったのか、賠償についてはどうなったのか等を検討する機会を頂きました。

普段の介護・看護の現場において、聞き馴染みのない判決結果を示す事例などは、一見すると責任の重さに恐れおののいてしまいがちですが、施設として、入所時の説明、入所中の様子を定期的に家族に伝える事。統一した見解、記録の作成、事故が発生した場合の客観的説明が出来るように備える講義となっており、対応マニュアルや、クレーム対応の手引きまで、頂くことが出来ました。

リスクが発生しないということは残念ですがありません。今回の研修において、発生したリスクに対して、どう向き合うか、また同じことを繰り返さない為にどう検証するのか、やむを得ず訴訟となった場合の対応について、具体的に学ぶことが出来ました。

施設におけるリスクについて、他の参加者と会場で直接意見を交わすことや、同じ議題について検討することは、リモート開催の研修では、なかなか実感したい内容であったと思います。研修の内容について、施設に持ち帰って頂き、リスクマネジメントの分野で活躍頂ければ幸いです。

研修委員 大和田雄太 晴山苑

支援相談員部会

令和6年2月28日にポトプラザちばにて支援相談員部会が開催されました。久しぶりの対面研修となり、41施設58名の支援相談員が参加しました。

今回はアンガーマネジメントについて、「支援相談員のためのイライラとの上手な付き合い方」と題して、たきふどう社会保険労務士事務所代表でありアンガーマネジメントコンサルタントの高野真子氏をお迎えしご講義いただきました。グループに分かれ、それぞれの怒りの事例や傾向について意見を交わすことができました。怒りは悪いことではなくどのような怒りが大切であり、また自己認識を深めることで怒りのコントロールをしていくことができるようになるということが印象的でした。人それぞれに怒りのポイントや度合いが違い、怒りに対しての対処法を学び大変参考になりました。ご利用者様やご家族、関係機関とのやり取りの中で実践し、より良い対応を心がけていきたいと思えます。

館山ケアセンター夢くらぶ 佐生真紀



支援相談員部会感想



たいよう
忍足 様

令和6年2月28日（水）ポトプラザちばを会場に令和5年度支援相談員部会が開催されました。

たきふどう社会保険労務士事務所、高野真子氏を講師に迎え「支援相談員のためのイライラとの上手な付き合い方」をテーマに講義が行われました。

『支援相談員としての感情のコントロールの重要性を確認』を講義の目的として、①「自己認識」ができるようになる②自分の事例で3つのコントロールができるようになる、をセミナーのゴールとして講義がすすみました。

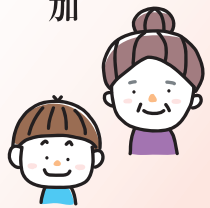
グループワークを通して、怒ることのデメリット・メリットを参加者と共有し、自身のイライラを振り返り、参加者と共有することでアンガーマネジメントは自己認識が大切であることを体験し、怒らないことではなく、怒る必要があることは上手に怒り、怒る必要のないことは怒らないようになる、ことを実感することのできる講義でした。



管理栄養士の日常

葵の園・南房総

管理栄養士 川名祐加



私は去年の11月に育休から復帰することが出来た。職場復帰と共に息子は保育園に通い始め、お友達や年上の子と遊ぶことがとても楽しいようで毎日笑顔で仕事に行く私を見送ってくれている。手遊び歌や童謡を保育園で教えてもらおうと保育園の発表会の映像やYouTubeを見ながら楽しそうに真似している。

家族の誕生日やクリスマスには4世代で食事をするが、息子はいつもおやつをくれる90歳の曾祖母が大好きなのだ。YouTubeで手遊び歌を映すと2人で一生懸命やっている。曾祖母は昔ながらの曲は覚えていないがYouTubeよりリズムが1テンポ遅れてしまう。私はYouTubeのリズム

に合わせてしまうので息子には早いか目で追うだけになってしまいが曾祖母のリズムだと息子は真似することができるようだ。ボールの投げ合いで遊んでいる時も大人たちは力加減を調整



してしまいが曾祖母は本気で投げている。本気で遊んでくれているのが伝わるのかとても楽しそうに見える。とても微笑ましい光景に一瞬あこがれを抱いてしまう。

日々の生活ではついつい早口になってしまっている。会話や本を読むペースも大人が基準になっていて息子には早く目まぐるしく感じてしまうのかもしれないと反省してしまっている。慣れた道をお散歩していても大人には新しい発見は難しい。子供達には石ころ1つ1つが違うもので新鮮な発見になっていると思うと一瞬一瞬をもっと大切にしたいと思わせてくれる。

職場では利用者様の時の流れに合わせて関わられるように心がけている。意思疎通が難しい利用者様も本気で向き合えば通じるものがあると思うのと同時に本気で向き合わないと思う。これからの一瞬一瞬の気づきや気持ちを大事に利用者様と向き合っていきたいと思っている。

新車・中古車販売

新車の福祉車両はもちろん、中古福祉車両もご用意しております！

ハイブリッド車、EV車もご用意しております。

買取

大切なお車を買い取りいたします。車検済車でも対応いたします。車イス移動車、スロープタイプ、その他福祉車両お持ちしております。

車検・点検 飯金・修理

一般の車はもちろん福祉車両の車検点検、飯金、修理も行っております。福祉車両ならではのリフト部分やサイドステップ、車イス固定装置などの車検部のメンテナンスも行います。また、お車を預かりする際は、福祉車両の代車をとお出しいたします。

リース

法人様向けに「車両管理メンテナンス」(福祉車両代車)をふくんだ福祉車両に特化したリースをご用意しております。その他、ファイナンスリース、保険付きなども承っております。

レンタカー

様々な車種の福祉車両レンタカーをご用意しております。1ヶ月以上の長期貸出もできます。

保険

自動車保険をはじめ、火災・盗難・傷害・賠償各種お取り扱ひいたします。請負・正産をモットーとし、お客様の期待と信頼にお応えします。

福祉車両のことなら

エンジニアス株式会社

お気軽にお問い合わせください！

☎048-263-9180

FAX 048-263-3452

〒333-0848 埼玉県川口市芝下1-14-23

BCP・日常業務に業務用無線がお役に立ちます

**災害時の
避難誘導に**

**緊急連絡
手段として**

**簡単操作で
一斉通話**

業務用無線機・インカム・トランシーバー販売

関東電子株式会社

〒260-0022 千葉市中央区神明町5-15

☎0120-456-720

お気軽に
お問い合わせ
ください！

もののなな スマイル

明るく!

元気!

施設の笑顔をご紹介します!



■ ナーシングプラザ流山

流山市は「都心から一番近い森のまち」です。子育て環境も整っており、近年は「転入超過率、人口増加率No.1」そんな地域に位置しており、柏市、松戸市に隣接した施設です。「愛し愛される施設」、「利用者様第一主義」をモットーに平成11年設立いたしました。「在宅復帰・在宅支援」、「認知症ケア」、「看取りケア」様々なニーズに応え、多職種共同で利用者様・家族様に寄り添い支援をさせていただいております。

住 所：流山市前ヶ崎248-1
電 話：04-7145-0111
開設日：平成11年11月5日
入 所：120名
通 所：44名

働くうえで
御本人様や御家族様のご意向や思いを大切に、
寄り添いを忘れず
勤めております。

支援相談員
小林千愛



■ 北柏ナーシングケアセンター

当施設は常磐線沿線にある北柏リハビリ総合病院との複合施設です。敷地内にはセラピー公園があり、四季折々の樹木や草花を楽しむことができます。法人理念の「感謝な心」を基本として、明るく家庭的な雰囲気の中で利用者様とのふれあいを重視しています。

住 所：柏市柏下265
電 話：04-7169-8001
開設日：平成12年3月14日
入 所：120名
通 所：70名

入所者様は
目上の方と意識して
敬語や態度などに
気を配っています。
ありがとうの言葉が
何よりうれしいです。

介護福祉士
小崎由郎



老健ちばカレンダー

令和6年度の研修会の予定が総会で承認されました。まず第1回目の研修会として4月16日介護報酬改定の研修会が開催されます。その後、12回の研修、支援相談員部会、事務長会も予定しております。千葉県老健大会は9月13日開催予定です。今年は忙しくなりそうです。皆さん体に気を付けて頑張りましょう!

● 編集後記

- 暖かい冬も終わり、7月にはパリオリンピック! 今回のオリンピックは間が3年ということもあり、あつという間でしたが、スポーツ界は世界で活躍する選手がたくさんで楽しみですね。3年ぶりと言えば介護報酬改定も大変ですが、何とか乗り切りたいですね! (白石)
- 新年度になり、介護報酬改定で国が求める老健の課題と地域の持つ特有の課題に挟まれながら、その両者を解決しようと皆さま日々奮闘されている事と思います。そんな皆さまに少しでも心安らげ、有益な情報が得られる誌面作りに今年度も励みたいと思います。ただ、私自身は花粉症の対応に追われており、目と鼻が本来の機能を放棄しようとしていて困っております(苦笑)(古田)
- 新年度となりました。今年度は報酬改定もある為、心機一転! フレッシュな気持ちで! というわけにはいかず、バタバタしたスタートを迎えておりますが、皆様はいかがでしょう? 広報委員としての仕事も徐々に慣れてきていますが、まだまだたくさん勉強していきたいと思っておりますので、今年度もよろしくお願い致します。(松戸)

- いよいよ新年度の始まりですね! 気分も上がり旅行にでも行きたくなる今日この頃ですが、報酬改定の対応で皆様お忙しいと思います。広報委員会として、今後も施設訪問やアンケートなどで情報収集し、改定の影響等もものはなだよりで報告できればと思っています。(坂本)
- 今回は、1月に行われた理事会や報酬改定についての記事をまとめましたが、4月から報酬改定の対応に追われている方もいらっしゃると思われます。国は、処遇改善加算等について「ベースUP一本化」を進めていますが、全国的にベースUP一本になった途端、掛けた梯子を外すように、全て施設負担にされるのでは? と不安に感じているのは私だけでしょうか? (処遇改善加算が始まった時に「一時的」や「いつ終わるか分からない」という情報が頭から離れないのは私だけでしょうか?)(福田)
- 春ですね。過ぎやすい季節はあつという間に過ぎていきます。この4年間は長かったなあ。でも、5年後、10年後にどんな気持ちで振り返るのかしら。きっと誰もが忘れられない4年間でしょうね。今年度は取材等、会員施設の皆様と直接お会いできる機会が増えると期待しています。よろしくお願ひします。(若林)